

図書館を活用したマイブックリスト作成プログラム

～読書による知的活動の増進事業～

代 表 者：鈴木 達也(リハビリテーション学部)

連 携 機 関：浜松市立都田図書館

【はじめに】

作業療法は「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠に基づいて行われる（日本作業療法士協会,2018）。近年、作業療法士が行う地域向けの健康増進事業として、認知症、介護、転倒に関する予防事業が行われている。2023 年度の地域連携事業「自分史作り」に見学で参加した浜松市都田図書館から、作業療法の視点で地域住民向けの活動が行えないかと依頼があった。そこで本事業では図書館と協働し特徴である「読書」の作業に焦点を当てた地域連携事業を実施した。本事業では、参加者同士がそれぞれに思いのある本を共有することにより、関心の広がり、社会交流が期待できる。また学生との交流をすることで世代間の交流ができ、新たな刺激に繋がることが期待できる。以上のことを通して、図書館と作業療法のコラボレーションによる健康増進事業を実施したところ、本事業終了後も、一部の参加者に「読書」への作業参加や社会交流に変化が見られたため、地域活動の新たな展開として報告する。

【実施方法】

参加者は地域の回覧板、A 図書館の掲示板、チラシで一般から公募した。実施日は 2024 年 9 月 6 日の 10-12 時。プログラム内容は作業と健康に関する講義、本探し、参加者の関心ある本のブックリストの作成、ブックリストの発表とした。

また、参加者 3～4 名に対して学生スタッフ 2 名が加わり、本の検索やブックリスト作成、発表時の傾聴を行った。プログラム後はアンケートを実施。アンケートは参加者の年代、講座を知った方法、図書館の利用頻度、図書館カードの所有、1 ヶ月の読書数、講座の満足度、自由記述式で印象に残ったことについて無記名で回答を得た。

【結果】

参加者は 10 名（男性 4 名、女性 6 名）。アンケートは 9 名から回答を得た（回収率 90%）。回答者の年代は 50 代 1 名、60 代 3 名、70 代 3 名、80 代以上 2 名。講座を知った経緯（複数回答）は「地域の回覧板」と「図書館のポ

当日のタイムスケジュール

10:00～	挨拶・講義
10:20～	本探し
10:50～	休憩
10:55～	ブックリスト作成
11:25～	発表
11:55～	ふりかえり・まとめ



講義の様子

該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	☐ 承認番号（ ） ☒ 該当しない	
利益相反	☒ なし ☐ あり（ ）	
発表状況	種 別	☐ 著書 ☐ 論文 ☒ 学会発表 ☐ 紀要 ☐ その他（ ）
	年月日	2025 年 6 月 15 日（ ☐ 確定 ☒ 予定）

【2024 年度地域連携事業費報告書】

スター・チラシ」3名,「図書館のホームページ」,「X」,「知人・友人」2名,「その他」1名であった。図書館利用頻度は「月に数回」3名,「久しぶりに来た」3名,「年に数回」2名,「初めて来た」1名であった。図書館利用者カードの所持状況は「持っている」7名,「持っていない」2名であった。月に読む本の冊数は,「数冊」5名,「10冊以上」3名,「50冊以上」1名であった。事業の満足度は「非常に良かった」5名,「良かった」4名であった。自由記述式の回答では,知識を得て読書欲が高まり,他者と感想を共有できて良かったという意見が多く見られた(表1-6)。



学生スタッフとブックリストを作成

表1. 参加者の年代

年代	人数
50代	1
60代	3
70代	3
80代以上	2

表2. 講座を知った方法(複数回答)

方法	人数
地域の回覧板	3
図書館のポスター・チラシ	3
図書館のホームページ	2
X(旧Twitter)	2
知人・友人から	2
その他	1

表3. 図書館利用頻度

頻度	人数
月に数回来ている	3
久しぶりに来た	3
年に数回来ている	2
初めて来た	1

表4. 1ヶ月に読む本の数

冊数	人数
数冊	5
10冊以上	3
50冊以上	1
100冊以上	0

表5. 講座の満足度

満足度	人数
非常に良かった	5
良かった	4
普通・良くなかった	0

表6. 印象に残ったこと

内容	人数
人と交流できた	4
読書意欲が高まった	2
楽しい時間を過ごせた	1
本探し・リスト作成が良かった	1
知識を得られて良かった	1

該当欄の□を■にし, 必要事項を記入してください

倫理審査	□承認番号() ■該当しない
利益相反	■なし □あり()
発表状況	種別 □著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他()
	年月日 2025 年 6 月 15 日 (□確定 ■予定)

【2024 年度地域連携事業費報告書】

【実施 3 ヶ月後の調査結果】

事業実施 3 ヶ月後の図書館の参加者への調査では、図書館の常連利用者だったが、今回の企画に参加したことをきっかけに、他の図書館のイベントや市の環境政策課の勉強会などに参加し人との交流を深める参加者や、本について語らう読書会の開催」を図書館に希望したり、事業を通じて仲良くなった方とともに来館頻度が増加している参加者が見られた。また、ある女性は「一人での利用が多かったが図書館に来たことがなかった夫と来館するようになった」など、参加者の一部に図書館での読書の参加形態が変化した報告が得られていた。

【考察】

今回の事業では「読書」という特定の作業に焦点を当てた。結果、「読書」の作業参加の維持・向上に繋がり、参加者の読書への関わり方や社会交流、他の活動についても影響が見られた。「読書」は一般的に一人で行う作業であるが、作業の知識を得て他者交流ができたことが影響したと考えられる。作業参加の「維持・向上」群は「低下」群に比べて健康関連 QOL が全方位で良好である（今井, 2019）、作業の視点で特定の作業への参加を維持・向上することにより地域への健康増進活動に貢献できる可能性がある。今後とも作業を通じた事業を継続しさらなる効果を明らかにしていきたい。

【成果】

2025 年度は浜松市立都田図書館との活動を継続し年 2 回に増やして開催を予定している。また、2025 年 6 月に浜松で開催される第 38 回静岡県作業療法学会で発表予定である。



該当欄の□を■にし、必要事項を記入してください

倫理審査	☐ 承認番号 () ☒ 該当しない	
利益相反	☒ なし ☐ あり ()	
発表状況	種 別	☐ 著書 ☐ 論文 ☒ 学会発表 ☐ 紀要 ☐ その他 ()
	年月日	2025 年 6 月 15 日 (☐ 確定 ☒ 予定)